



学校だより

やまゆり



2026 年 8 ・ 9 月号

令和 8 年 8 月 2 7 日

横浜市立大口台小学校

神奈川区大口仲町 460

学校からのお知らせを学校HPや「すぐーる」で日々発信しています(担当:副校長) <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/oguchidai/>

「夏祭りのわくわくトライ」

校長 横尾 健之

7月の熊本地震、8月の千葉豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

日が落ちると虫の音が聞こえるようになってきました。まだまだ日中は暑いですが、一步一步秋が近づいているのが感じられます。

夏休みが明け、いよいよ学校がスタートしました。久しぶりの級友との再会に喜びを全身で表す子どもや眠たそうな顔をしてまだペースをつかめていない子どももいました。夏休みの過ごし方は様々だったと思いますが、今日から学校生活が新たにスタートします。

夏休み中に地域のお祭りに参加させていただき、ありがとうございました。

炭鉾節だったと思います。会場に近づくにつれて曲のボリュームは上がり、足早に会場を目指しました。到着した会場には、たくさんの地域の方々や本校の児童が集まっていました。

テントの放送席にいた本校児童の進行によるアナウンスでお祭りが始まりました。

しばらくすると盆踊りの曲が流れ、それに合わせて太鼓の節が聞こえてきます。太鼓を叩く子どもを見ている私に地域の方々や保護者の方が次のことを教えてくれました。

「みんな大口台小学校の子どもですよ。」

「大きなお子さんは卒業生です。」

「夏に練習があり、卒業生が子ども達に太鼓を教えてくれています。」

夏休みに入る少し前に校内を回っていると音楽準備室から太鼓の音が聞こえてきました。準備室を覗くと子どもが和太鼓を叩いていました。天に向かってバチを突くポーズが決まっていました。パフォーマンスも素晴らしいかったです。これは、どこかで習っているなと思いました。

お祭りの会場で音楽準備室にいた子どもたちがやぐらにいました。きっと太鼓の練習は7月から始まっていたのでしょう。もっと前からかもしれません。学校で太鼓を見て叩きたくなったのは、何度も何度も練習して体が覚えてしまったのだと推測できます。

そして、太鼓の師匠は大口台小学校の卒業生。代々続く文化は、これからも続く予感がしました。きっとそして、このつながりに、練習時間や場所を提供し、子どもに寄り添ってくださる地域の方々の温かい思いを感じました。

いつの間にか、太鼓の調べに合わせて、地域の方々や子ども達がやぐらを囲んで踊っていました。生き生きとした子ども達と出会い、地域で受け継がれる「夏祭りのわくわくトライ」に感動した一日となりました。

今日から新たなスタート。全教職員で力を合わせて、子ども達の「わくわくトライ」をつくっていきます。

今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。